

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500016		
法人名	有限会社 白ゆり		
事業所名	グループホーム白ゆり		
所在地	大分県佐伯市上岡1265番地2		
自己評価作成日	平成24年5月28日	評価結果市町村受理日	平成24年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 !F
訪問調査日	平成24年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者さんは、遠慮なく自分の希望、意見を発言出来ています。 ・季節感あふれるおいしい手料理を提供しています。 ・利用者と職員の関り、関係が理念のように明るく元気に楽しく出来ています。 ・職員の離職が少ないので、顔なじみであり、利用者さんを不安にさせることなく継続した援助が出来ています。 ・施設周囲の環境が、四季おりおりの変化(花・鳥など)に恵まれています。 ・協力医療機関との連携による終末期の看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する、医療機関と連携し、利用者の健康保持に積極的に対応されています。また毎年計画的に防災・避難訓練を消防署等の関係機関の協力を頂きながら実施し、利用者の安全確保に取り組まれている。利用者の希望・状況に合わせた入浴支援に取り組まれ、買い物・外出支援など、なじみの関係を継続し、家族や友人への電話・手紙支援、家族連絡など、個々の希望に柔軟に対応している。運営者および管理者は、ミーティングや食事で職員の意見や要望を素直に受け止め施設の運営に反映させており、職員から信頼されている。職員は、意欲を持ち、より質の高い介護を目指し生き生きとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や朝の申し送り時に、地域に密着した理念を確認しながら共有して、利用者さんと共に楽しく仕事をしています。	理念を事業所の道しるべとして、大切にし毎日の朝礼等で共有しながら、利用者が地域やホームで、その人らしく暮らし続けることを念頭にしながら支援に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3, 11を受けた地域での避難訓練に利用者さんと職員が共に参加したり、地域の方から野菜を頂いたり、苑での行事に積極的に参加の声かけを行い、交流を深めています。	ホームの行事への参加依頼や地域の行事等に積極的に参加され、近隣の人やボランティアがホームに訪れたり、野菜等を頂くなど積極的な関わりがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長、民生委員の方には運営推進会議で、地域の方には普段から認知症についての情報発信を行い、理解を得られるようにしている。また認知症家族の会への参加も心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の意向に添った議題の検討や包括からの議題など双方向を心がけ、工夫しています。行事や利用状況の報告、苑に対する意見、行事参加での感想を伺い、質の向上に活かしています。	運営推進会議では、ホームの課題や利用者の状況等、双方向で話し合いがなされ、地域密着型の役割を大切にされる取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多忙の中、運営推進会議に介護保険課係長に参加していただいたり、福祉課職員との面談を密に行い、利用者さんの支援に協力してもらっています。また市担当者を訪問、電話相談を行っています。	市町村の担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え課題があれば、その解決方法を一緒に協議するなど積極的な関わりがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や申し送り時に職員間で勉強、意見交換を行い身体拘束のないケアの実践に取り組んでいるが、安全を確保するためやむなく玄関の施錠を行っています。薬で抑えるのではなく、関りを密にし服薬は医師との連携のなかで最小限に努めている。	身体拘束に関する勉強会等を事業所内で、年2回程実施し、利用者が外出しそうな様子を見かけたら一緒に外に出られるなど、利用者が落ち着くような行動に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会を行い、普段から利用者さん同士の日常会話や動作を注意深く観察し、口論程度でも間に入り、未然に防いでいます。また、些細なことでも家族に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の必要な方がいないため、勉強会を行う予定ではあるが、実施には到っていない。権利擁護制度を学び、理解の機会を作ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や本人の不安や疑問が解決出来るように、十分説明をし同意を得て契約書を交わしています。変更の際は、説明の書類を作成し面談にて説明、家族会にて説明をして承認をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が、遠慮なく自分の意見要望を発言出来る関係づくりをしています。また、意見箱、第三者機関、運営推進会議、家族会の活用。面会の時に家族からの言葉を真摯に受け止め、統一した介護・運営に反映しています。	家族同士の集り場など意見交換しやすい場を作り、要望等があった場合、職員間で話され、市の相談窓口等、家族が苦情を伝える機会や場所があることを説明されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝礼など職員からの意見が気軽に言える雰囲気づくりをしており、チームワークを大切にした運営に反映しています。	ミーティング、勉強会を行ない、運営方法、職員交代等現場の職員と協議がなされています。また日々の関りの中、職員の気づきやアイデアが運営・支援に組み込まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用条件の改善(パート⇒正規雇用)を予定。賞与の受給、食事会の開催などを行い、また業務に対し認め、誉めるように努めており、やりがいを持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として研修への参加を確保しており、研修などの案内を掲示しています。研修報告を職員全員で把握、質の向上に努めています。勉強会も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加やGH連絡会等で他施設と連絡する機会を設け、交流する機会を作っています。23年度はGH代表として、中央圏地域ケア会議に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みがあった際は、本人、家族と面談し、ADL状態や価値観、入所に対する気持ち等確認しています。可能であれば事前に気軽に見学していただけるよう努めています。また体験入居利用もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る家族の想いを受け入れると共に、困っていることや不安なこと、要望、疑問などに耳を傾けています。金銭面を含めた利用料の相談も行っています。繰り返し相談援助を行い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、事前アセスメントを行い、心身状態や生活歴、家族状況などを把握し、まず必要としている支援を行っています。最近では、歩行器利用や在宅酸素などの他サービス利用の援助あり。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ふきの皮むきや洗濯物たたみなど、共に同じ作業をしたり、自分で出来ることは自分で行うなど役割を持ってもらっています。また職員から先輩として教えを請うたり相談することもあります。日々の暮らしを共にする関係を築くように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	看取りの部屋があり、職員と共に、ご家族が心おきなく本人を支えることが出来ています。また施設の行事等に出来るだけ参加をお願いし、面会の際に日々の出来事や様子を報告して本人の情報を共有して共に本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月などの帰省や入居以前からの友人に施設の行事への招待をしたり、面会もお願いしており、変わらずにお付き合いが出来ている。また、利用者の希望に添って馴染みの美容院やお店利用を支援しています。	今までの生活延長上を保ち、知人、友人等へ電話などで連絡を取られ、継続できる支援、古い友人と行き来を楽しめるような支援や馴染みの職員が継続的に支える体制づくりがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新入居者さんの紹介や間を取り持つなど、他入居者に溶け込みやすい支援や、利用者の性格を把握し、想いや尊厳を大切に楽しく過ごせるように支援している。ホールでの席は、相性など考慮し場に入り易い雰囲気づくりと声かけを行っています。居室の訪問が盛んです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族が、玄関先の花の手入れをしてくれたり、野菜の差し入れを頂くなどの関係を維持しています。入院に於いてはお見舞いに行き状況を把握しています。お亡くなりになられた方のお通夜や葬式に参加して残されたご家族の心の支えになれるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と触れ合う中で、時折の気づきや想いを見逃さないようにし、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、全職員で情報の共有と検討を行いながら、その人にとって最良の暮らしは何か、常に意識を持って関わっています。	個人個人の思い、意向の把握に努め、どのように暮らしたいかなど、職員会議等で確認し、家族を交え検討がなされています。また、本人が言葉にしづらいことを日々の行動や表情から把握し、支援に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、担当ケアマネに伺ったり、入居後、家族や知人の面会時に話を伺い把握に努めています。可能な範囲で本人からも話を聴いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の暮らしの現状は日々変化していくことを自覚したうえで、毎朝の健康チェックや本人との関りのなかで、出来ること出来ない事心身状態、生活リズムの把握に努めています。また変化に柔軟に対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃から職員、家族、本人からの意見を取り入れてチームで介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い見直しをしています。カンファレンスでの職員の意見も反映して、全職員が統一した援助が出来ています。	介護計画は、本人、家族、関係者と本人本位で話し合い、要望等を反映した介護計画に取組まれ、支援中の介護計画で対応出来ない要望、変化が生じた時は、介護計画の見直しに取組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画の援助内容に添ってケアを行い、様子や気付いたことを記入しています。介護記録、連絡ノート、ヒヤリハット等で職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	透析受診の送迎を家族と分担して行うなど、その人に必要な病院受診、往診、訪問診療の援助や買い物援助など個々の本人、家族のニーズに柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りや腹話術などの地域ボランティアや区長、民生委員さんを行事に招待して利用者さんと共に歌や踊りを楽しんだり、地域の観光施設や高速工事現場へのドライブを楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、本人の希望を大切にして、入所前のかかりつけ医受診を継続出来るよう受診の援助を行い、適切な医療が受けられるように支援しています。なお苑の敷地内に協力医療機関があり常日頃から連絡相談を行っています。	定期的な受診を受けられ、事前に家族へ連絡するなど支援を行い、受診日以外にも利用者の状態の変化に合わせ、医療機関との連絡をとり対応されています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で気付いた情報を看護職員に報告、相談をし(看護師配置)適切な受診や看護を受けられるように支援しています。不在時は協力医療機関の看護師による必要に応じた協力を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	透析が必要な利用者さんは、病院と常日頃から連絡ノートのやり取りにより情報交換しています。入院時には添書と申し送りを行い、連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には支援方法や終末期に対するアンケートや話し合いを行っており、重度化した際は主治医を含め家族と話し合いをし、事業所として出来ること、出来ない事を説明し協力医療機関も含めチームで支援に取り組んでいます。	入所時にアンケートをとり家族の意向を聞きながら、医師や関係する支援者と情報を共有しながらチームで支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議や勉強会を通じてマニュアルに添った適切な対応が、より徹底して出来るように繰り返し訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での避難訓練に利用者と職員が参加したり、隣地病院の協力のもと避難訓練を行うなど地域との協力体制を築くよう努めています。災害時のマニュアルを作成、活用しています。	毎年2回防災訓練をされ、近隣施設、地区の人、消防署等の参加があり、職員の防災意識向上や消火器訓練等に取り組まれています。	風水害対策として、非常時の食料品の備蓄を期待すると共にその適切な管理を期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルや日頃の処遇を踏まえて、勉強会を行い、利用者一人ひとりに対する声かけや対応が、誇りやプライバシーを損ねないで、人格を尊重出来ているように十分気を付けて対応しています。	プライバシーに対するマニュアルが整備され、利用者の日ごろの関わり合いの中で、配慮が見受けられ、全職員で共有しながら対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中で、一人ひとりの想いを尊重し、自由に発言、自己決定出来るような雰囲気、関係づくりが出来ているのが特徴です。理にかなわない本人の想いに対しても、否定することなく、まずは受け止めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や気分など、本人と話し合いながら想いを把握、尊重し居室で過ごしたいと想う人に対しては、あえて無理に外に出そうとせずに、その人が望む生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に添って馴染みの美容室などに行けるよう支援している。訪問理容師によるカットもある。こだわりのカチューシャやペンダントなど遠慮なく身につけていただき、折につけ誉めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんに皮むきしてもらった食材をすぐ調理している。同スペースにホールがあり、料理の香りなど五感に食事の楽しみを感じることが出来ています。朝の「いただきます」の挨拶や下膳などしてもらっています。	食事メニューは、利用者と相談しながら取組んでいます。また、また地域の方々からの差し入れられた野菜の下ごしらえや調理と一緒に取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表をもとに、個人の状態やその日の体調に応じて食事介助や盛り付け量、栄養補助食品の導入、水筒の使用など柔軟に対応しています。わんこそばの要領で、一口ずつ小皿に入れて食べてもらう方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導により、口腔ケアが必要な利用者には、義歯の手入れや歯磨きの手伝いをしています。また自分で出来る方も確認しています。週1回ポリドント洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況を把握し、可能な範囲でおむつの使用が減るようにトイレ誘導、声かけをしています。排泄パターンやトイレサインを把握し声かけを行ったり、居室内のトイレへの、ベッドからの動線を工夫して失敗が減るように支援しています。	排泄の失敗を減らすため、ベッドから立位出来るよう、高さ、手摺の位置に配慮され、利用者の表情・行動・見守り、トイレ誘導に心掛けがなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の健康チェックで排便の有無の確認を行い、看護師・栄養士・介護士で水分補給・体操・運動・繊維質の多い献立づくりなどチームで取り組んでいます。また必要に応じて緩下剤を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全を考慮し職員二人体制で支援しています。基本的に週3回(月・水・金)に行っていますが、利用者の体調や希望に合わせて日時を変更したり、友人とおしで入浴したり、入浴剤を使用して楽しんでもらっています。	週3回をベースにしなが、利用者の意向に応じ、一人ひとりの入浴支援に取り組まれています。また、入浴は同姓で行なうなど利用者への配慮が伺え、入浴を楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるように、静かな環境を確保し、また家庭のように目に付くところに布団を干し清潔な寝具を使用したり、空調を調整し、快適な心地よい休息を確保しています。日中は可能な限り離床座位確保に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬を毎回確認し、飲み忘れや誤薬がないように努めています。職員は勉強会や薬状を見て理解に努めています。新規や変更の際には看護師が連絡ノートに記入、個別に指導を行うことで収支徹底に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かし、カラオケや洗濯物たたみなど職員と共にしています。トイレや居室など掃除する方もいます。また外出や買い物、居室でコーヒーを飲むなど気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や希望に添ってドライブ、買い物などの支援をしています。年に2～3回地域の方の協力のもと、利用者・家族・職員で外出する機会を作設しています。普段から施設周辺を散歩したりしています。	本人の状態や習慣、希望を聞いて外出支援に取り組まれ、利用者が外出されるときなど、地域の人に理解や協力を求めるなど地域との連携に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の体調や希望に添ってドライブ、買い物などの支援をしています。年に2～3回地域の方の協力のもと、利用者・家族・職員で外出する機会を作設しています。普段から施設周辺を散歩したりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で財布(小額)を持っている利用者や事業所預かりの利用者の方も外出時など自分の意思で買い物をして、自分で支払うように支援しています。また金銭管理が出来なくても本人の希望で、ごく小額の所持を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や必要に応じて家族と相談したうえで、本人の希望により事業所内の電話をかけたり、取り次いでいます。携帯所持している方もいます。はがきの購入援助など行い、手紙を出すこともしています。	玄関、廊下、台所、トイレ等の共用場所に四季を感じ取れるような花飾りなど、利用者と一緒に取り組まれています。また共用空間の家具の配置等も、利用者と一緒に取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや浴室など適切な空調を努めています。ホールは明るく広々としており、日向ぼっこなど居心地良く過ごさせています。笹や正月飾りなど季節感ある飾り物や四季おりおりの花を飾ったり、窓からも四季の変化を感じとれます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールソファやベンチ、談話室などで一人でゆったりと過ごしたり、気の合う仲間と楽しく過ごせるように工夫しています。また事務室で職員と共に穏やかに過ごされる方もいます	利用者の要望を取り入れ、心地よい居室づくりを、また利用者が使われていた物、馴染みの物を活かし、その人らしいを居室として工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は明るく、静かで本人が慣れ親しんだ家具や仏壇などご家族と相談しながら使っていただいています。ぬいぐるみやタオルなど本人の嗜好により居心地良く飾っています。		